(第三種郵便物認可 大正八年三月七日) 昭和十二年十二月四日 THE IWAKIJIHO (土曜日) (第七千九十號)(一)

夕刊 磐城時報

三日

福島縣平市銀座町十四 編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
福島縣平市鍛冶町十四 印刷所 加納活版所
福島縣平市鍛冶町十四 發行所 磐城時報社
一部金武錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

第五校を後廻し 新川南に平商校

學務委員會の方針

平市新川裏の市營埋立事業は豫定通り進行してゐたが一日平市學務委員會を開き協議の結果同埋立地に建設する筈の第五小學校を後廻しとし明年度に於て多年の懸案である市立平商業學校を同地に新築する計劃をたて工費八萬圓を明年度豫算に編成する事に大体方針を決定した、同埋立地は第五小學校敷地として認可を得てゐるが通學並に就學兒童數の現況から大して早急を要せぬので寧ろ腐朽狹隘を告げてゐる平商業學校の方が先決問題であるといふ事になつたものである

△平市入營兵

今三日入營した市內の分左の如くである

材木町阿部重雄、田町神谷忠男、同金子元彦、胡摩澤高田五郎、鎌田町丹野孝一、上平窪鈴木實、古鍛冶町齋藤武雄、七軒町作山友則、幕ノ內鈴木喜平、上平窪滸薬貞一、白銀町加藤武久、上平窪根本長壽、下平窪川角富雄、古鍛冶町國井重次郎 一丁目田口晃

今日から 產業週間

三日から國民精神總動員產業週間、平市役所では縣の計劃による左記實施事項を市內關係方面に周知、產業の振興を通じて銃後市民の責務を全ふする事となつた

三日產業報國日(神社參拜、講演、講話、產業振興座談會)四日勤勞奉仕日(出征兵士遺家族に對する勤勞奉仕)五、六日能率增進日(早起、就勞時間の延長、時間勵行、共同勞作、業務精勵)七日國產品愛用日(必要品購入に際し國產品を選擇使用實施)八日廢物利用日(廢品の蒐集利用)九日貯金報國日(共同勞作授產、冗費節約等による收益を以て報國貯金、各種貯蓄)

躍進江名の昨今

產業路四通八達 水產加工場續出 仲作埋立地も活況

江名町は江名、仲作兩漁港修築その他で漁業關係方面は非常に惠まれてゐたが純農民部落はその恩惠に浴する事少なく町當局では本年始め農民部落に對する副業として水產加工を奬勵する方針をたて主要條件である自動車道路の開鑿工事中であつたが江名、小名濱間縣道永崎部落から分岐し大字下神白を經て小名濱漁港に通ずる四米幅の道路(工費三千圓)及び小名濱町から上神白を經て大字江名に通ずる路線(工費五千圓)は大部分完成した。これによつて水產加工品の材料がドシドシ同方面に運搬され下神白方面には最近加工場が續出昨今では三日に一軒位の割合で新工場が出現してゐる、一方小野晋平氏の事業である仲作海岸埋立工事は二萬八千坪のうち約三分の二は竣工し同所にも加工場が建ち並び現在では一坪十八圓の高價を現出してゐる

小川江の工事進行

小川江筋第三期第三回工事は工費三萬餘圓、市內堀江工業の材料供給によつて此程着工、水渇季を利用してドシドシ工事を進めてゐる

改修地域は神谷村大字鎌田部落から草野村絹谷に至る延長二千七百米、殆ど岸工事で其間神谷村中神谷地內にトンネル工事(延長一七六米)が一ヶ所、明春三月竣功の豫定である

尙農閑季に際し就勞希望者は現場事務所へ

少女暴行犯人 犯行を否認す

控訴院裁判長等 勿來海岸實地檢認

去る四月二日小學校生徒を襲ひ負傷させた勿來町白山一四無職鈴木太津二郎(三)にかゝる暴行致傷事件控訴公判は二日宮城縣控訴院勅使河原裁判長、關山檢事係りで開き事實の審理を進めたが被告は犯行を極力否認したので二十一日同町海岸に判檢事が出張實地檢證を行ふ事になつた

△水道斷水

平市水道部では配水管敷設工事のため三日午後九時から四日朝五時迄左の區域の斷水を行ふ

十五町目、南町、三丁目
四丁目、新川町、五丁目
大町、月見町

揚操船の制限陳情

小名濱、四倉、江名の各關係揚繰業者は最近揚繰網業界の傾向が大船强馬力主義に移向し各組合とし競つて大型漁船を作る結果濫獲の弊害が益々甚だしくなるのに鑑みこれを防止すべく二日知事宛陳情書を提出今後揚操網船の大きさは四十噸八十馬力に制限されたいと陳情した

赤井嶽に 二日初雪

赤井嶽に二日降雪を見た、小名濱觀測所の記錄によると例年の初雪は十二月十九日、昨年は十二月二十一日でそれから見ると今年は二十日近くも早目に來たわけである、これは日本海の西部から能登沖を貫いて防州沖にた不連續が發達した影響を受けたもので天候は間もなく恢復する筈である

鎌田橋存置陳情

佐藤神谷村長出縣

平神谷間の舊鎌田橋は國道廢止後も存置されるやう平神谷兩市村から縣當局に陳情する事既報の如くであるが佐藤神谷村長は四日左の陳情書を携へ出縣する

國道筋鎌田橋存置の儀に付陳情

本縣平市並に神谷村を貫流せる夏井川に架設の鎌田橋は國道第六號線に屬し今回の該路線一部變更に伴ひ自發廢止の悲運に陷る事と思考被致候處右廢止の結果は平市字鎌田及び下川原と神谷村大字鎌田字川岸との連絡を絶ち當該部落民の經濟上並に生活上に深刻なる影響を及ぼすものあるは曩に本年九月八日付甲第一〇六號を以て進達せる地元關係民の陳情書により明らかなるのみならず地方發展上に及ぼす影響亦甚大なるもの有之候に付ては右國道路線の一部廢止と雖も前記鎌田橋は依然存置相成る樣特別の御詮議相仰ぎ度關係市村長連署を以つて此段及陳情候也

△白米泥棒

小名濱町字橋本野菜行商猪腰三郎(三三)は去月中泉村下川佐藤己之吉方から白米四斗を手始めに白米專門に窃盜を働らき二日平署に檢擧された

△常磐炭礦況

去る二十一日以降三十日迄の常磐炭發送高は

事業用五、三七八車六八、七四一瓲
鐵道用一、四七四車一九、五三八瓲
合計六、八五二車八八、二七九瓲

で前年同期に比し事業方面に於て三百二車七千八十七瓲を增してゐるので鐵道用が百八十四車千六百九十六〇を減じて居るが差引尙ほ百十八車五千三百九十一瓲の增となつて居り、去月中を通算すると七百五十六車一萬七千六百八十九瓲の增となつてゐる

親が病氣 歸らぬ息子

双葉郡刈野村酒田字堤中八九〇四番地三吉氏長男留藏君は平市南町充屋古川金松さん方に奉公してゐたが最近三吉さんが中風に罹り半身不隨となつたので歸宅するやう電報をかけたが返事がないので說諭方を平署に願ひ出でた

△女給行衛不明

平市南町四二、八島屋方に下宿中の佐藤久君は內妻秋田市生れ千葉リツ(十八)さんと前記八島屋に同棲しリツさんは市內三丁目裏通りカフエー平會館の女給に通はせてゐたが去月二十八日夜七時頃リツさんが働先きの平會館から姿を晦ましてしまつたので久君は男に誘拐されたらしいと平署に搜索方を願ひ出でた、リツさんは身長五尺二寸丸顏で可愛い女であると

コンポーク 塩豚
平町田町 三三屋
電話三三三番

移轉お知せ

毎度御贔負下され深謝仕ります、弊店儀今回
◎平市三丁目本通り目拔の場所
に移轉致しました、更に御客様本位に勵む覺悟で御座いますれば何卒倍舊の御聲援の程偏へに懇願申上げます

洋服店 正札堂
本町三丁目(梅原米穀店隣)
電話四三六番

◎お洋服は今が買時です
生地は優秀、柄は流行、而も値段は超安値……此の三柏子揃つた弊店の勉强振りをおためしを然も仕立はお誂へと同様、寸法は特別に各種取揃へ……必ず御滿足の戴ける當店自慢の大サービスです。

三井質店
平市四丁目
電話六〇六番

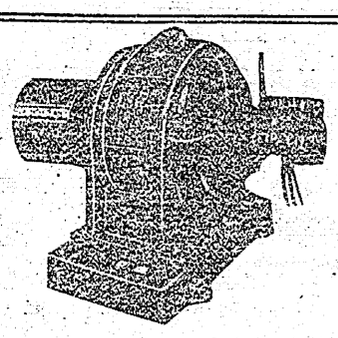
國威奮起…國民体育向上…秋のスポーツ來る!!

★野球、庭球、競技、体操用具……特賣
★各種運動服裝……特賣
△非常時は足元から御用意下さ〻！
國防靴―茶利革自製品
金七圓　訓練に―工場靴に

出征…歡送迎…の旗
新型の京都製品の優美な旗
ウヰンドに陳列有ります。

團旗、校旗、會旗、御注文を……
出來上り一週間以內
京都兒島代理店
各種自製靴
運道具
大塚
平市田町銀座通り
電話七十七番

モートル變壓器 修理販賣



平月見町
佐藤鐵工所
（電話三六二）
◎事務員募集可成簿記に經驗あるもの

和洋銅鐵金物問屋
金屋商店
諸橋久太郎
電話九九番

竹林賣却廣告

一、三寸竹　大凡三百束
一、六寸竹　大凡三千本
一、所在地　永戸村大字上永井字迎田

右立木ノマヽニテ賣却仕リ度候間買入御希望ノ節ハ實地御覽被下候上ニテ價格協定仕リ度候
尙現地御調査ノ際ハ上永井字迎田熊谷春次氏方弊社囑託技師中新井氏ヲ御尋ネ被下候ハヾ詳細御案內申上可ク候
昭和十二年十二月
平市字一丁目二十一番地
石城林業株式會社
社長　鷹崎正見
▽……人夫三人入用
電話三五七番

電話3番です
藥品百貨と
寫眞機材料の店です
平市本町二丁目
西村屋藥局

開業廣告
齒科一般
平市田町（安濟醫院向）
齋藤醫院
東京齒科醫學士　齋藤賢三

可愛らしいお子様方
七五三御祝品
種々取揃へました
ツルヤ

◇互融會事業報告　十月中

融通口數　九三口
融通金額　四、三八〇・〇〇
滿期拂戻口數　八八口
滿期拂戻金額　四、〇〇五、〇〇

概況　昭和十二年十月末現在
會員數　八、三三一口
世帶數　五、四五五戶
積立金　一一四、九四二・七七
融通金額　一四四、七三五・〇七
融通金回收高　六一、三四六・五〇
滿期拂戻口數　四二三口
滿期拂戻金額　一九、三五〇、〇〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所　福島縣平市搔搥小路一番地
電話五五五番

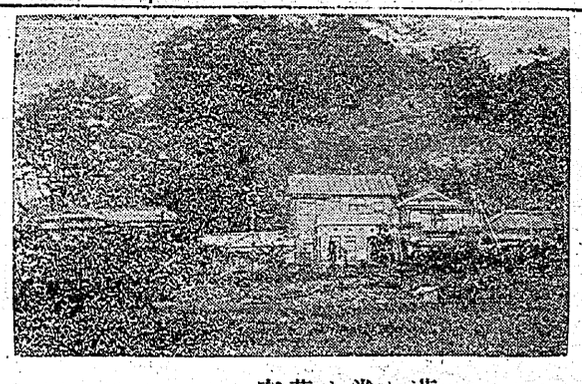
小名濱方部　小名濱町古港
菊田方部　植田町臺町
湯本方部　湯本町天王崎
相双支部　原町東一番町

平市田町（電話五一三番）
高久病院
院長　高久忠
副院長　赤羽清
藥局長　佐竹菊雄
內科小兒科
耳鼻咽喉科
外科花柳病科
レントゲン科

開院廣告
平病院
電六四一番
平市警察署側（元共濟病院跡）
院主　院長　醫學博士　**鈴木定藏**

內科　院長　醫學博士　鈴木定藏
小兒科　部長　醫學士　木下基一
產婦人科
一般外科
皮膚泌尿器科　部長　醫學士　池谷宗三郎
レントゲン科　院長　醫學博士　鈴木定藏
物理的療法科　技師　岡田重德
藥劑科　部長　藥劑師　吉本孝平

◎診療時間　每日午前八時ヨリ午後九時迄
夜間診療ニ從事ス
（急患ハ此ノ限リニアラズ入）
往診隨時
病室完備…入院隨時【自炊ノ便アリ】
入院料　一日　特等貳圓、一等壹圓五拾錢
二等壹圓參拾錢



秋の行樂と小瀧

茸狩の季節となりました。
當鑛泉裏山一帶も出初めました。初茸、あみ茸、しめじは非常に豐富です。
◇天も澄み、心もすが〳〵しい一日の行樂は……
鐵道省指定旅館
割烹
小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

吉田眼科醫院
平市紺屋町（電話六八番）